



島の密度は日本一！

九十九島は、リアス式海岸(1)と外洋性多島海(2)の景観が特徴で、1km当たり3・81の島があり、島の密度は日本一という調査結果(宮城県発行の「県立自然公園松島学術調査報告書」)があります。

1 侵食された山地が、地殻運動や海水面の変化のために海水の浸入を受けてきた、複雑に入り組んだ海岸のこと。

2 一定の広さに多くの島がある外洋に面した海域のこと。日本には1カ所しかない地形で、西海国立公園の特徴を表す独特の表現になっています。

# 九十九島のいろいろ

九十九島の島の数は「99」？

九十九島の「九十九」とは、数が多いことを表す言葉として使われますが、「数え切れないほどたくさん」の島々があり素晴らしい」という意味で、江戸時代中期には既にこう呼ばれていたようです。

実際の島数は、平成11年に発足した市民ボランティアによる「九十九島の数調査研究会」が約一年半をかけて調べた結果、「208」の島があることが確認されました。その内訳は、北九十九島が128、南九十九島が80です。

一つの島に六つの名前？

島が80で、市町別では、田平町10、鹿町町57、小佐々町30、佐世保市11です。

島名は、国土地理院や海図、各自治体の地図から調べる方法がありますが、地図によって名前が違ったりもや、記載が無いものがありました。

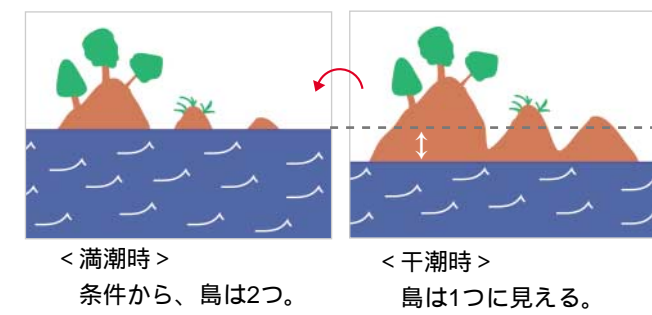
そこで、昨年8月から11月にかけて、西海パールセンターの九十九島調査室と県立大学の西村千尋教授の研究室が、合同で九十九島の島名調査を行い、南九十九島の80島のうち、72島の名前を確認しました。

調査では、国土地理院、海図、各自治体の地図などを使うほか、九十九島近辺在住の高齢者や島に詳しい人、漁業関係者、瀬渡し業者などから聞き取りをして、名前の由来や言い伝え、歴史についても併せて調べました。調査の結果、地図によって名前が違う以外に、同じ島でも地元での呼び名が地区によって違うものがありました。中には、一つの島に「鼠島」、「兎島」、「元杭島」、「根摘島」、「元栗島」、「ヤジマ」の六つの名前がある島もありました。

今後は、北九十九島についても、島名調査を行うことにしています。

## 島の条件

満潮時に水面から出ていること  
陸の植物が生えていること



島がはぐくむ豊かな自然

九十九島の樹木は、一部にクロマツが見られますが、主に葉が厚く表面につやのあるカシ・シイ類の照葉樹が茂っていて、島を深い緑色で包んでいます。

また、対馬暖流の影響を受けて温暖な気候のため、南方系の植物が数多く見られ、中には生息地の北限とされているものがあるほか、チヨウチヨウオオ類やクマノミなどの熱帯性の魚なども見ることが出来ます。

海は穏やかで、複雑な形をした入り江が多く、海岸の埋め立てなどの開発で全国的に少なくなっている干潟(3)や砂浜もたくさん残っています。そこでは、さまざまな生き物が生態系を保ちながら生活しています。



カノコリ(A)  
市の花。和名の「鹿の子百合」は、その模様が小鹿の背中(斑点)に似ていることから名付けられました。7月中旬～8月中旬ごろには、遊覧船からも花を楽しめます。



カブトガニ(A)  
「生きている化石」とも呼ばれ、かつてはたくさんの地域にすんでいましたが、干潟の埋め立てなどにより、現在は数少ない地域にしかいません。昨年9月、九十九島では初めて卵も確認されました。

ドロアワモチ(C)  
ウミウシの仲間で、大きな内湾の奥の平坦な砂泥干潟にすみ、干潟表面の藻類を食べます。九州以北では、知られていた生息地のほとんどが埋め立てられて全滅し、今なお生息している場所は数カ所しかありません。



# 九十九島と共に生きる生き物たち

九十九島では、ほかでは見ることができないような珍しく、貴重な動物植物が見られますが、その中には環境の変化によって絶滅する可能性があるものも少なくありません。

3 砂と泥が混ざった遠浅の海辺のこと。干潟にはたくさんの生物がすんでいます。周囲にはその周囲の森林も重要な役割を果たしています。栄養を含んだ土が森で作られ、雨水が栄養を干潟に運び、海藻、海草、植物プランクトンが育てます。そのため、干潟には小さな生物をはじめさまざまな生物が集まっています。



ミサゴ(B)  
トビと同大の大型のタカ類で、魚をえさにします。巣は海岸の岩の上や岩棚、大木の木の枝などに枯れ枝を集めて作ります。移動中には、烏帽子岳などの山地でも見られることもあり、行動範囲は広いですが、個体数の少ない鳥です。



ハマボウ(D)  
南九十九島海域は、県下における一大生育地です。花はアサガオのように一日でしおれてしましますが、毎日たくさんの鮮やかな黄色の花が次々と咲き、7月～8月に、遊覧船からも花を楽しめます。

## レッドデータブックへの指定状況

- レッドデータブック 絶滅の恐れのある野生生物の生息場所や数、絶滅の危険性のランク(順位)などをとりまとめた本(市は平成14年に発刊)。
- A環境省・市で絶滅危ぐ種(絶滅の危機にひんしている)に指定。
  - B環境省・市で準絶滅危ぐ種(現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危ぐ」に移行する可能性がある)に指定。
  - C市で絶滅危ぐ種に指定。
  - D市で準絶滅危ぐ種に指定。

九十九島の誕生

